

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 県ヶ丘の冬山合宿のサポート・・・失敗は経験

1月最終の土日の26、27日、低気圧の通過で日本列島は大荒れの天気となった。僕の声掛けで、池工山岳部と県ヶ丘山岳部ではジョイント合宿を計画していた。場所は、その前の週にセンターの研修会を開催した鹿島槍スキー場上部の黒沢尾根である。

その数日前から天候の悪化が告げられていたこともあり、池工の山岳部はもう一つ乗りが悪かった。前日の金曜日に、参加を予定していた数人の生徒から参加を見合わせたい旨の申し出があった。僕としては危険のきわめて少ないフィールドでもあり、安全性に配慮して実施する自信はあったが、中に保護者の同意を得られていないという生徒もいたため、実施を見合わせた。しかし、僕が県ヶ丘を誘った手前もあるので、池工の生徒は参加せずとも、県ヶ丘のサポートをしようと松田さんに連絡をした。

当日は朝から天気予報通りの大雪。生徒が行かないというのは一方で寂しくもあったが、責任を負わなくてもいいということでもあり、心の中には「生徒がいけないというのはなんて気楽なんだろう！」という弾む気分もあった。自分で言うのもなんだが、生徒を連れて山に入るときはそうはいつでもそれなりの覚悟をしているのも事実。だいたい生徒が一緒なら、テントをもっていくだろうに端から軽量化を考え雪洞泊の想定でテントは持たず、足回りもワカンはやめて山スキーとした。生徒が行くならば、足回りは生徒に合わせるどころだし、初めて雪山に泊まる生徒に雪洞泊はさせない。

実は冬山に生徒を連れて行くつもりで、池工コーチを頼んでいる山内一成氏（大町山の会）と矢口拓氏（大町山案内組合）にサポートを頼んであった。直前のキャンセルであったが、二人とも僕と一緒に県ヶ丘のサポートに回ることを快諾してくれた。良き山仲間である。一方で、県ヶ丘は松田、宮澤の顧問2人に生徒は8名、総勢13名での合宿となった。雪が降りしきる中、ゲレンデトップから山の中へ入る高校生たちは1年生が6名に2年生が2名。テン場まではスキー場からわずか30分ほど登っただけだが、スキー場とは全くの別世界。



「雪上ラリーをやるぞ！」松田さんの一言で、ザックを置いて一休みした生徒たちは、降りしきる雪をものともせず、雪まみれになって決められたエリアの中を駆け回る。ゴール地点はテン場予定地。ワイワイ大声をあげて胸までの雪にてこずる生徒たち。ひとしきり身体を動かしたあとで、その勢いで幕営開始。それを横目に我々サポート3名は雪洞掘りにかかる。穴を掘りながら生徒たちを見ていると何だか様子がおかしい。いつまで経ってもテントが立たないのだ。それもそのはず、彼らももってきたのは、昔懐かしいウインパーテント。エスパーズジャンボを持ってくるつもりで、確認せずに間違っ

て持ってきたようだ。もちろんポールはエ  
スペースのそれだから、合うべくもない。  
一方我ら雪洞隊にも予期せぬ事態が発生。  
最初に積雪深を測ったところ 240cmあつ  
たので、大丈夫だろうと掘り始めたのだ  
が、実際のところほぼ 70 から 80cmほ  
どは昨日から今日にかけての新雪だつた  
のだ。で、何が起こったかという、掘り始  
めて小一時間、およそ出来上がったところ  
で、天井が抜けたのであった。まあ、こん  
なこともある。・・・テントの方は暫し松田  
さんのお小言が聞こえていたがやがてそれも治まり・・・そこは山やの知恵、松田さん  
のアドバイスでプロブやポール、ザイルを総動員して何とか無理張り。なんとも珍妙  
な古式ゆかしいウインパーがそれらしく張られたのには感心するやら、驚くやら・・・。  
テントが張られた後、エネルギー旺盛な若者たちは雪洞作りに興味を示し、すさまじい  
馬力であつという間に雪洞を掘り上げた。当初は自分たちの荷物置き場として計画して  
いたようだったが、一瞬にして宿を失った我らは、彼らの掘った雪洞にヤドカリさせて  
もらうことに・・・。



一晚風雪に耐えたウインパー

かくて、苦労の末に一夜の宿が出来上がった次第。思えば、山をやっている中で、失  
敗はしばしばある。もちろん、失敗はあるべきではないし、それはきちんと反省され総  
括されるべきものである。しかし、その失敗に育てられて山やは成長する。たとえ失敗  
があつたとしても無事に生きて帰ることが、登山をする者が最も心しなければなら  
ないことである。時にはその失敗を知恵と勇気をもって乗り越えることで強くなる。失  
敗を正当化する気は毛頭ないが、今回の県ヶ丘の生徒たちはこのテント間違いを忘れるこ  
とはないだろうし、それを乗り越えた知恵にきっと多くを学んだことだと思う。

翌日は快晴とはいかなかったが、1599mのピークまで行くことにした。丸一日以上降  
り積もった雪は、時に腰までのラッセルであつたが、若者が8人もいるとさすがに強い。  
我々スキー組と遜色なかった。このピークは晴れ渡ると鹿島槍を正面に望む最高  
の展望台なのだが、残念なことに生徒た  
ちにその景色を堪能させてやることはで  
きなかつた。しかし、スキー場からわず  
か1kmという場所で、厳冬期の雪の降り  
しきる中、こんなにいろんなことを経験  
させることができる素晴らしい場所があ  
る。我が池工の生徒たちがいなかったの  
がかえすがえすも残念であつた。



なお、今回も山に入るにあたっては長  
野県山岳総合センターより生徒数分のビーコンをお借りした。高校山岳部の備品とし  
てはもちろん、個人装備としてビーコンを揃えることは難しい。高校生の研修のためにと  
いうことで、貸し出していただきこの合宿が実現できている。ありがたいことである。